

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

夕方、お母さんから電話があった。

「ごめんね。仕事でおそくなるから、ご飯だけたいておいてくれる。」

ぼくは「分かった。」と答えて電話を切った。ご飯をたくのは、何度もやったことがある。でも、ふと思いついた。おかずはなくても、みそしるくらいなら、ぼくにも作れるかもしれない。

なべに水を入れ、とうふを切り、みそをとかす。いつもお母さんがやっているのを見ていたから、かんたんだと思っていた。ところが、味見をしてみると、口の中がきゅっとなるほどしょっぱかった。あわてて水を足すと、今度はうすくなりすぎた。みそを足し、水を足し、気がつくとなべはみそしるでいっぱいになっていた。

九時すぎに、お母さんが帰ってきた。

「失敗しちゃった。」

ぼくは下を向いたまま、みそしるを出した。お母さんは一口飲むと、少しだけ目を丸くして、それからわらった。

「しょっぱいね。でも、あったかい。」

お母さんは、つかれた顔のまま、二はいもおかわりをした。

ぼくは、なべに残ったたくさんのみそしるを見た。明日の朝も、これを飲もう。そして、次はもっと上手に作ろう。お母さんが毎日していることが、少しだけ分かった気がした。

(この問題のための書き下ろし)

問一 「かんたんだと思っていた」とありますが、ぼくがそう思っていたのはなぜですか。「くから」につづくように、本文から二十字までで書きぬきましょう。

て	い
い	つ
る	も
の	お
を	母
見	さ
て	ん
い	が
た	や
	っ

問二 「なべはみそしるでいっぱいになっていた」のはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

- ア 味を直そうとして、みそと水を何度も足したから。
 イ お母さんの分まで、たくさん作ろうとしたから。
 ウ 明日の朝の分も、作っておこうと思ったから。

ア

問三 お母さんが、しょっぱいみそしるを二はいもおかわりしたのはなぜだと考えられますか。四十字まで書きましょう。

し	っ	ぼ	味
か	て	く	は
っ	く	が	し
た	れ	自	よ
か	た	分	っ
ら	こ	の	ぱ
。	と	た	く
	が	め	て
	う	に	も
	れ	作	、

問四 物語の最後のぼくの気持ちとして、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

- ア 失敗してはずかしいので、もう料理はしなと思っています。
 イ お母さんに作ってもらおうほうがいいので、次からはたのもうと思っている。
 ウ 失敗したけれど、次はもっと上手に作ろうと前向きになっている。

ウ

【小5】国語 文章問題 物語文 3 答えと解説

問一（二十五点） 答え：いつもお母さんがやっているのを見ていた

解説：すぐ前の「いつもお母さんがやっているのを見ていたから」から。

問二（二十五点） 答え：ア

解説：すぐ前の「みそを足し、水を足し」から。しょっぱくなったりうすくなったりして、足しつづけた。イ・ウは本文に書いていない。

問三（二十五点） 答えの例：味はしょっぱくても、ぼくが自分のために作ってくれたことがうれしかったから。

解説：お母さんの「しょっぱいね。でも、あったかい。」という言葉から。「あったかい」は、ぼくの気持ちがうれしいということ。二つが入っていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①味はしょっぱい（失敗している）

②ぼくが自分のために作ってくれたことがうれしかった（あったかい）

問四（二十五点） 答え：ウ

解説：最後のまとうりの「次はもっと上手に作ろう」から。「下を向いたまま」だったぼくが、お母さんの言葉をきっかけに前向きになった。